

八代海海底地すべりプロジェクト

平成28年熊本地震の発生を受け、鹿児島県内への影響が大きい震源断層の南部延長の八代海域についての調査の必要性が高まった。2018年度に、鹿児島大学が中心となり東京大学・北海道大学・海洋研究開発機構などのプロジェクトチームが学術研究船「白鳳丸」を用いた研究航海を実施し、八代海において採泥および浅部地下構造探査を行った。

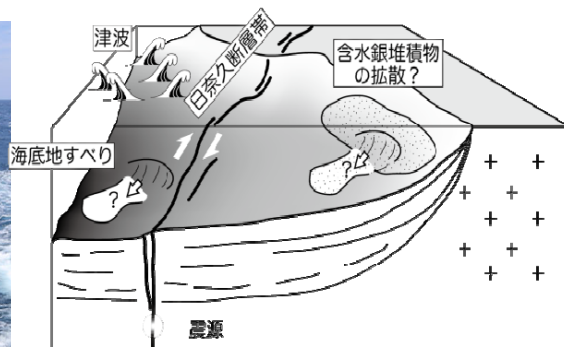


図1. 八代海における海底の模式図

研究航海で採取されたコアを用いて、地質学および環境化学・海洋生物学による多面的分析を行い、海底下の底質マスフラックスを見積もることにより、①地震による海底地すべり履歴と津波ポテンシャルを評価、②海底環境に与える影響を明らかにする。特に水銀をトレーサーとして用いる事で地震による海底環境の攪乱状況を評価する点が独創的。

人材育成 研究航海に参加した学生6名は大学院（東京大1・九州大2）、鹿児島県庁1、建設コンサルタントなど2。学会賞受賞1。その後も大学院進学や気象庁へ輩出。